

日系アメリカ移民一世の新聞と文学

資料2 『新世界』掲載小説、講談、落語リスト

日比 嘉高

『日本文学』第53巻第11号(No.617), 2004年11月, pp.23-34

リストに掲載したのは1896.11.4~1910.5.24に掲載されてすべての小説、講談、落語。ただし欠号も多く、特にサンフランシスコ大地震(1906.4.18)を挟む1900.12.29~1906.5.6は大きく欠けている。参照したのはカリフォルニア大学ロサンゼルス校図書館および立命館大学図書館所蔵のマイクロフィルム版である。

無印 日本国内で発表された作品の転載、◎ 移民地在住者による作品、▲ 一時的に滞在した内地の文学者による作品、□ 翻訳、? 不明

- 江見水蔭「泥水、清水 泥水之巻」二回分確認、1896.11.4 - 5 (*1)
- 広津柳浪「非国民」(五)1897.2.10 (*2)
- ?長田=〔艸+恵〕香女史「初恋」(三)、1897.3.11
- ◎天外居士「短編小説 去年の今日」全一回1899.10.28
- 思軒居士訳「無名氏」(五)~(九の三)、1899.10.28 - 11.20 (*3)
- ◎せつけい生「船長」全二回1899.11.1 - 2
- ◎エツチ、ユウ生「多作のうらみ」全二回1899.11.4, 6
- ◎浮沈木「教育小説 只つた一文字」全四回1899.11.7-11
- ◎田原豊水「懸賞小説 つり舟」全六回1899.11.14-21
- 松居松葉「山賊芸妓」八四回未完1899.11.21~1900.3.15 (*4)
- ◎川島天涯「短篇 色むすめ」全四回1899.11.22 - 27
- 桃川燕林講談、速記法研究会々員速記「永井義勇伝」〈講談〉全九七回1899.11.28~1900.4.2
- ◎幻夢庵「きりひと葉」全二回1899.12.6 - 7
- ◎浮沈生「鞍馬山騒動 未来の博士」全一回1900.1.4
- ◎尺魔「歌かるた」全一回1900.1.4
- ◎川上天涯「なみだ」全三三回1900.4.2 - 5.14
- 無署名「探偵小説 軍人仇討 川上行義」全一〇八回1900.6.13 - 10.26
- ▲佐藤迷羊「日本士官」全二七回1900.10.27 - 28
- ◎かふろぎ「をんな下宿」全八回1900.11.30 - 12.8
- ▲田村松魚「罪の手」二五回未完1906.9.15 - 10.8
- ◎新作小説、霄洋生「有縁無縁」全一回1907.1.1
- 翻訳小説、トルストイ原作、生重訳「小説 祈禱者」全七回1907.1.1 - 9
- ▲田村松魚「大成功」全六回1907.1.4? (欠号) - 9
- ▲田村松魚「新作 罪の手(後編)」七回未完1907.1.14 - 20
- 講談、桃川実述「台湾彩票 当り運」1907.2.1 - 2.? (欠号)
- ◎石田月下「新作 身の運」全八回1907.2.? (欠号) - 13
- ◎ひろ史「変わり者」全四回1907.2.14 - 17
- 翻訳小説、呑宙生「鸚鵡の一声」全四回1907.2.18-21
- 翻訳小説、プーシキン、明星訳「エカテリナ皇后とミロノフ將軍の娘」全七回1907.2.22 - 28
- ◎羅府 沈鷹「追憶」全二回1907.3.2 - 3
- 講談、石川一口講演「俠骨 日本男子」全二三回1907.3.6 - 30
- ◎明星子「小説 鉄腸」全七回1907.3.18 - 25

- 講談、島田一郎「梅雨日記」全三〇回 1907. 4. ?(欠号) - 5. 4
 探偵講談、山崎琴書講演「双児美人」全五四回 1907. 5. 5 - 7. 2
 落語、橘屋円喬口演「三軒長屋」全一〇回 1907. 7. 3 - 12
 落語、橘屋円喬口演「強情」全四回 1907. 7. 17. - 20
 ◎なこそ「ふみほご」九九回未完 1907. 7. 21 - 11. 26
 講談、桃川実講演「水戸光圀 犬の御意見」全六回 1907. 9. 30 - 10. 6
 講談、桃川実講演「平賀源内 知恵の袋」全一二回 1907. 10. 26 - 11. 7
 ▲在紐育 田村松魚「新作小説 出世間」全三〇回 1907. 11. 27 - 12. 26
 ◎懸賞小説一等賞、一瓢若人「待つ春」全一回 1908. 1. 1
 ◎懸賞小説二等当選、白蘭子「光明」全二回 1908. 1. 4 - 5
 ◎応募小説 賞外、渡辺溪月「卒業前」全二回 1908. 1. 6 - 7
 ◎応募小説賞外 在羅府 吉田和水「新年の東京」全二回 1908. 1. 8 - 9
 講談、神田伯龍講演「毒婦 野晒お駒」全五五回 1908. 1. 10 - 3. 4
 ◎菘村「弾下の夢」全二回 1908. 3. 5 - 6
 ◎天風「片思ひ」全二回 1908. 3. 7 - 9
 ◎社末象牙庵「みなは」全二回 1908. 3. 10 - 11
 講談、喋喃齋嚶鳴講演「曾呂利奇談」全七回 1908. 3. 12 - 18
 落語、禽語楼小さん口演「猫久」全七回 1908. 3. 20 - 26
 講談、神田伯龍講演「檜山実記 伊達三次」全六三回 1908. 3. 27 - 5. 31
 史談、無署名「桶狭間」全二回 1908. 4. 21 - 22
 □翻訳小説、トルストイ、秋田明星訳「アイリヤフ村に於ける参謀会議」全五回 1908. 6. 1 - 5
 一瓢若人「変人の行衛」全二七回 1908. 6. 13 - 7. 9
 講談、桃川如燕「侠客 腕の喜三郎」全五三回 1908. 7. 10 - 8. 31
 新講談、渡邊霞亭「悪美人」全四三回 1908. 9. 1 - 10. 13
 講談、柳々舎玉山講演「義士銘々伝」全九一回 1908. 10. 14 - 1909. 1. 18
 講談、三遊亭円朝校閲、司馬龍生口演「義侠の惣七」全四九回 1909. 1. 19 - 3. 18
 □流川訳「軍事小説 万歳」全一〇回 1909. 1. 24 - 2. 4
 新講談、省軒居士「探偵奇談 電信線」全三五回 1909. 3. 24 - 4. 28
 ◎早川水歩「恋の神」全三回 1909. 4. 4 - 6
 ◎逢喜楼「短編小説 文雄君」全三回 1909. 4. 15 - 17
 ◎早川水歩「鬼あざみ」全二回 1909. 4. 18 - 19
 ◎早川水歩「過壇龍草」(ルビ上下: くじゃくそう / The Maiden Hair) 全三一回 1909. 4. 29 - 5. 29
 ◎梅本露花「油谷の月」全一二回 1909. 5. 30 - 6. 10
 ◎逢喜楼「小鶯の喜六」全二回 1909. 6. 11 - 12
 塚原澁柿「長篠合戦」1909. 6. 13 - 9. 4 (*5)
 ◎帆里「不得要領」全四回 1909. 7. 6 - 9
 ◎帆里「自覚」全二回 1909. 7. 14 - 17
 ◎胡蝶子「火の車」全一回 1909. 7. 15
 ◎帆里「波瀾」全二回 1909. 8. 1 - 2
 ◎武村九華「写生 稲葉」全六回 1909. 9. 5 - 10
 ◎帆里「過去」全四回 1909. 9. 11 - 14
 ◎早川水歩「続 夢の女」全二回 1909. 9. 15 - 16
 ◎鈴木北川「瞑想家」一七回未完 1909. 9. 16 - 10. 5
 ◎鈴木秀峯「野花」全一七回 1909. 10. 8 - 25
 史談、愛山生「四十七士伝」全一三回 1909. 10. 13 - 30 (*6)
 ◎早川水歩「墮落」全二回 1909. 11. 5 - 6

- ◎早川水歩「落葉」全一回 1909. 11. 21
- ◎武村九華「暮秋」全一〇回 1909. 11. 22 - 12. 11
- ◎早川水歩「雪代」全二回 1909. 12. 6 - 7
- 伊原青々園「新かつら川」1909. 12. 18 - 1910. 2. 19 (*7a)
- ◎千雲居士「我が友」全二回 1909. 12. 23 - 24
- ◎鈴木北川「誕生日」全一回 1909. 12. 24
- ◎懸賞小説 第一等当選、梅本露花「日曜日」全一回 1910. 1. 1
- ◎早川水歩「泡雪」全一回 1910. 1. 1
- ◎明石帆里「船」全三回 1910. 1. 4 - 6
- ◎明石帆里「二人」全三回 1910. 2. 19 - 21
- ◎岡蘆丘「並木」全五回 1910. 2. 22 - 26
- ◎浅野露葉「離別」全五回 1910. 2. ? (欠号) - 3. 1
- ◎武骨浪人「双蝶」全一〇回 1910. 3. 2 - 11
- ◎平井桜川「そのまゝ」全六回 1910. 3. 12 - 18
- 真山青果「幕」全二回 1910. 3. 17 - 18 (*8)
- ◎明石帆里「お菊」全三回 1910. 3. 21 - 23
- 伊原青々園「新桂川」後編 1910. 4. 5 - 5. 24 (*7b)

判明している日本国内での初出、単行本

- (*1) 『文芸倶楽部』 1896. 4
- (*2) 『文芸倶楽部』 1897. 1
- (*3) 初出『国会新聞』 1894. 1-8、のち春陽堂 1898. 9
- (*4) 『万朝報』 1899. 10. 16~1900. 2. 2
- (*5) 初出『東京日日新聞』 1894. 10. 1 - 12. 27、のち佐久良書房 1909. 1. 17(澁柿叢書巻第十)
- (*6) 『独立評論』 1909. 4. 15, 6. 1
- (*7a, b) 『都新聞』 1909. 4. 20~8. 25、のち画報社より刊行、前編 1909. 7. 24、後編 1911. 8. 23
- (*8) 『大阪毎日新聞』 1910年1月1日